

2026年7月18日
若者気候訴訟 提訴2年イベント

気候危機のいま —何が起きているのか—

東海学園大学 教育学部 教授

名古屋大学 大学院環境学研究科
附属持続的共発展教育研究センター 特任教授

世界首長誓約/日本 事務局 事務局長

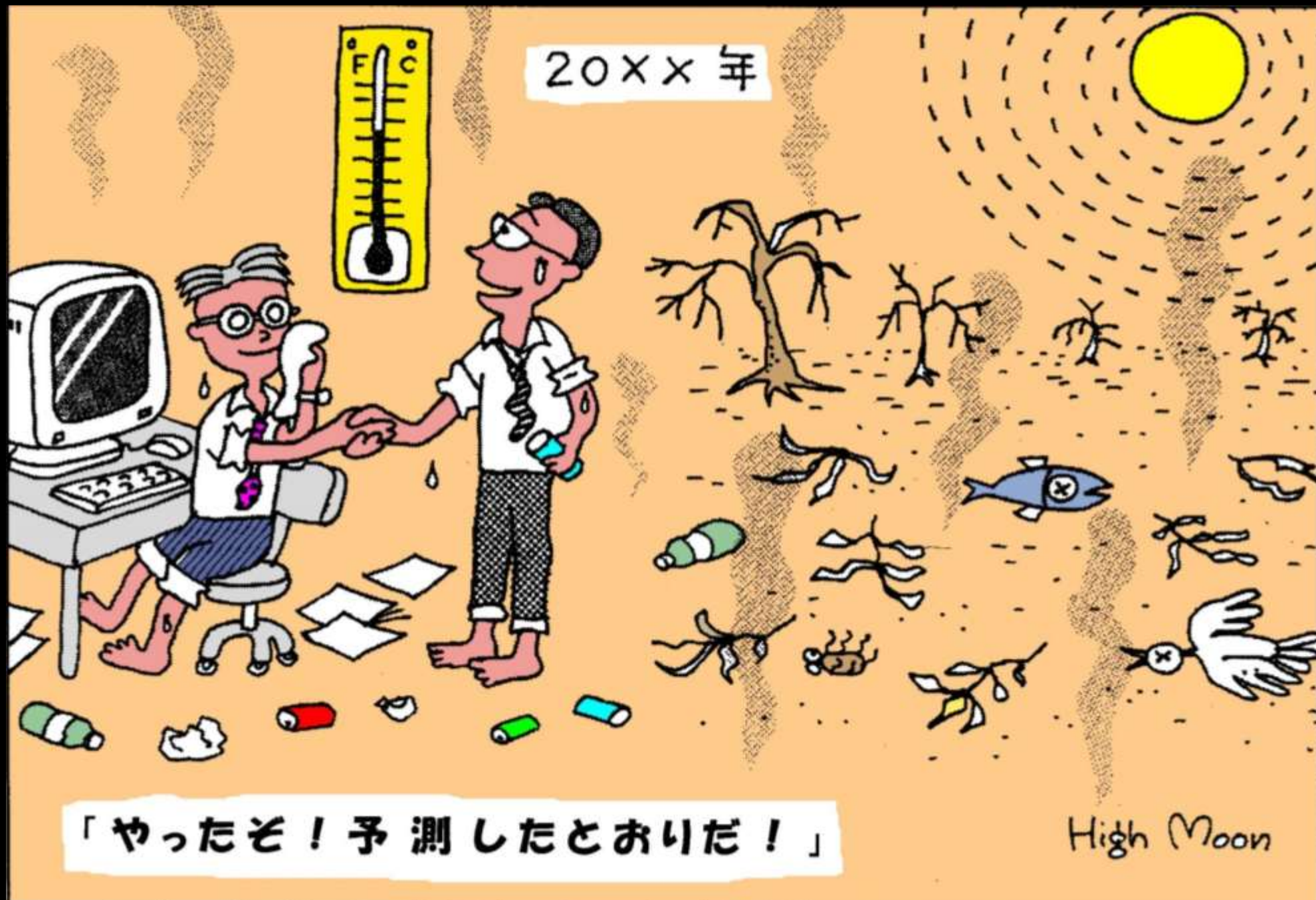
杉山 範子

Wende 2
未来へのアロチ

プロデューサー
竹内 守
監督 高垣 博也
撮影 安田 淳一
照明 はのひろし
録音 岩瀬 航
音楽 小林 一尚
ナレーター
都築 俊

杉山範子



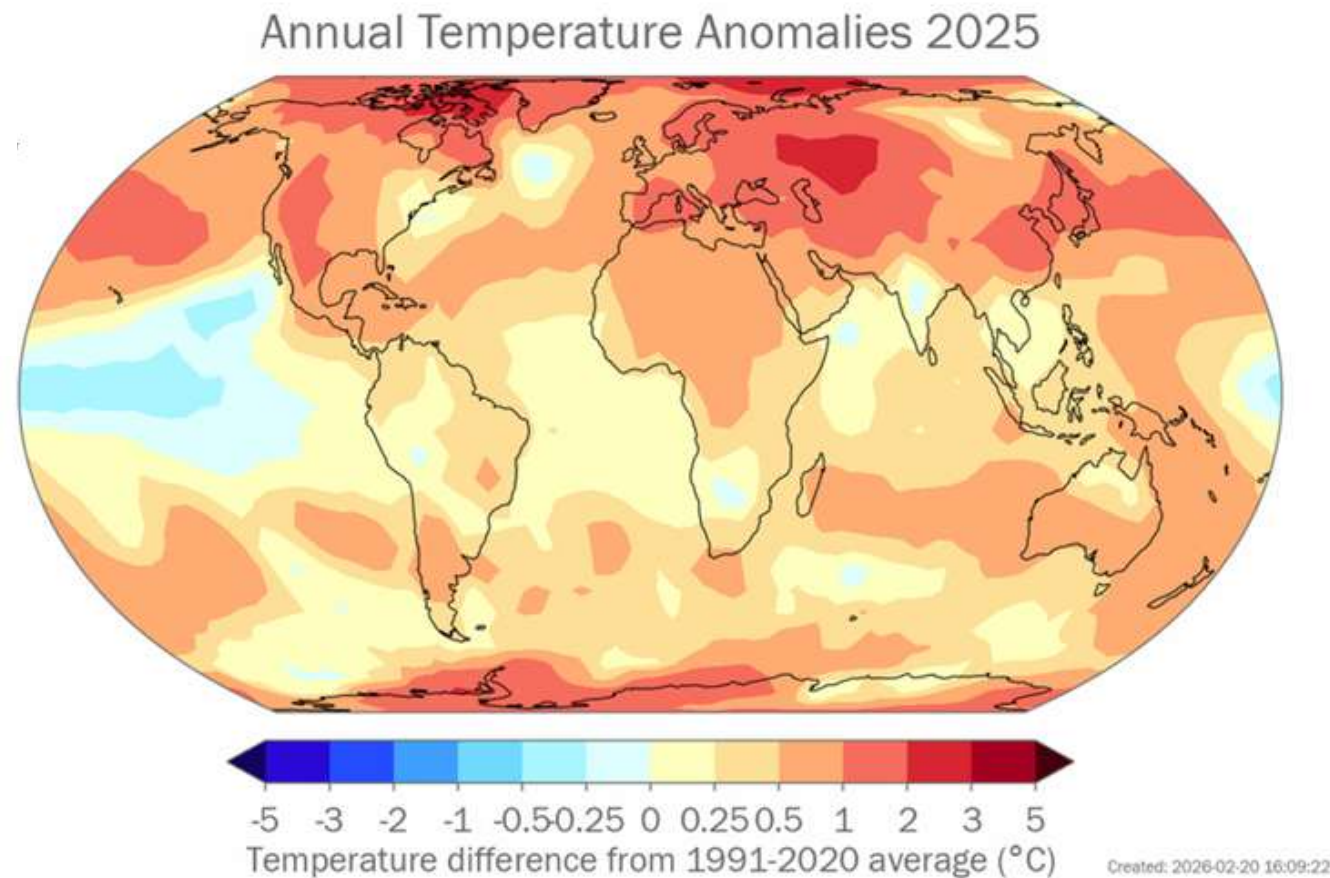


WMOの2025年世界気候現状報告書

世界的に、2025年は観測史上
2番目または3番目に暖かい年

$1.43 \pm 0.13 \text{ }^{\circ}\text{C}$

1850～1900年の平均を
上回った。

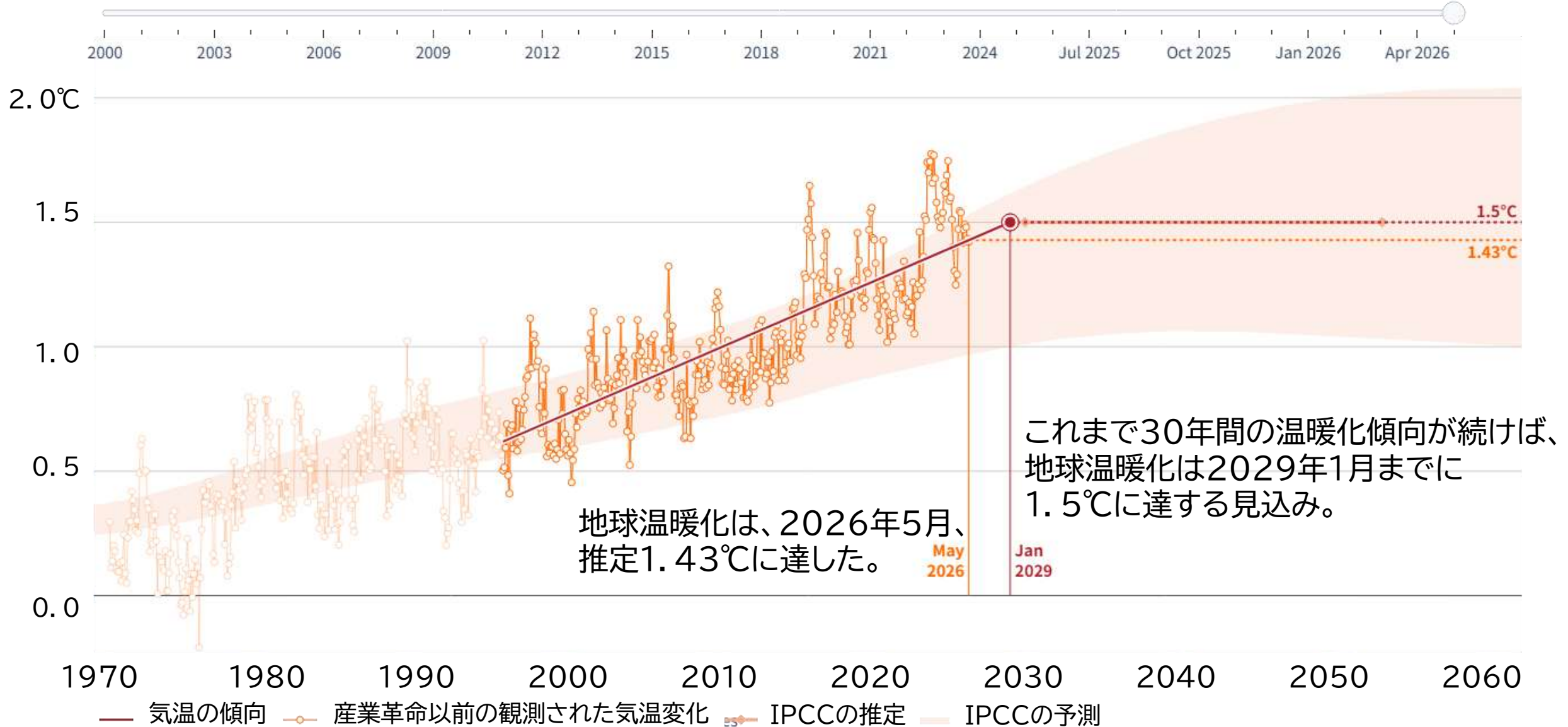


C3S global temperature trend monitor

C3S世界気温トレンドモニター

出典:コペルニクス気候変動サービス(C3S)
<https://climate.copernicus.eu/>

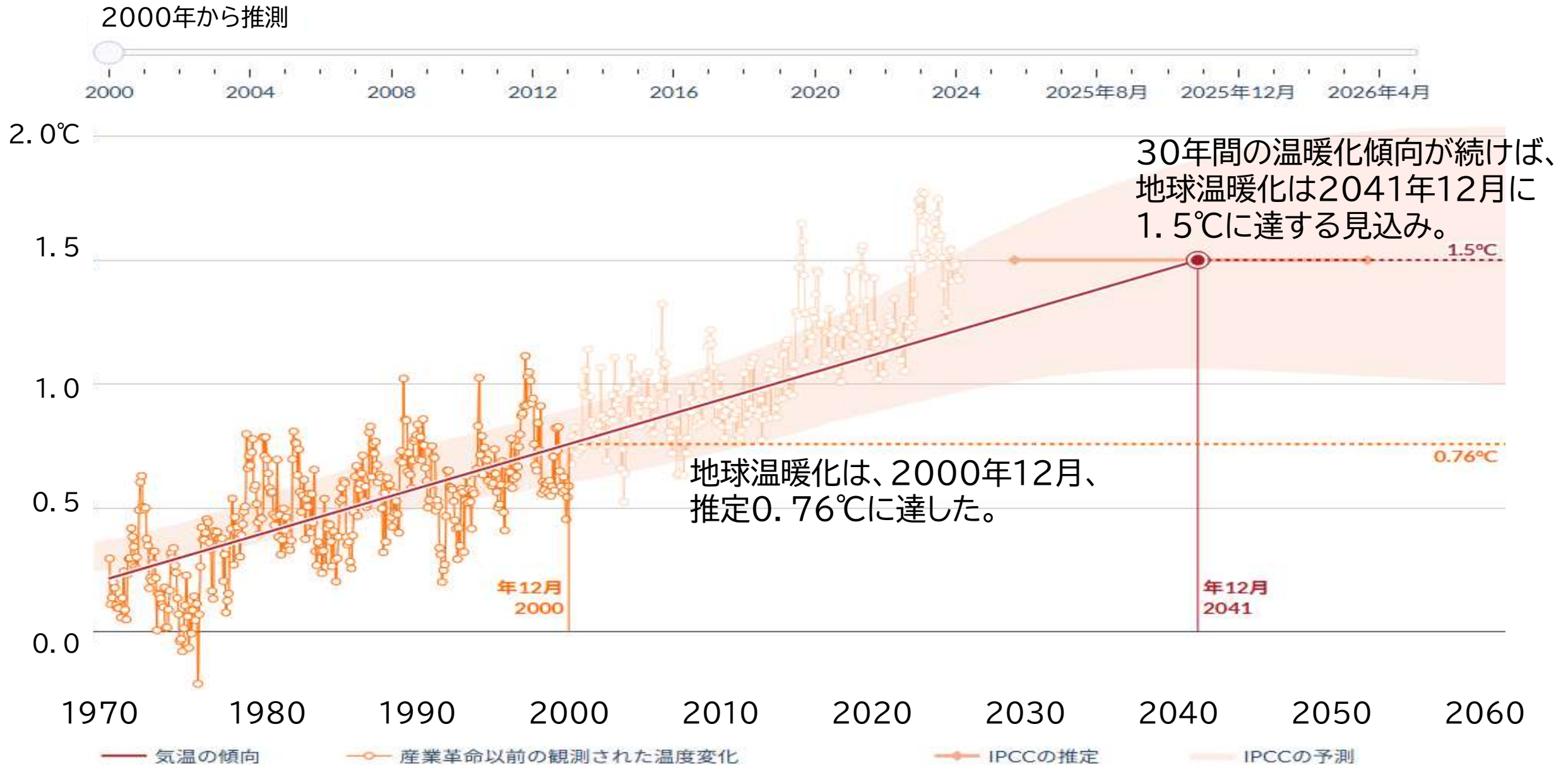
2026年5月からの推計



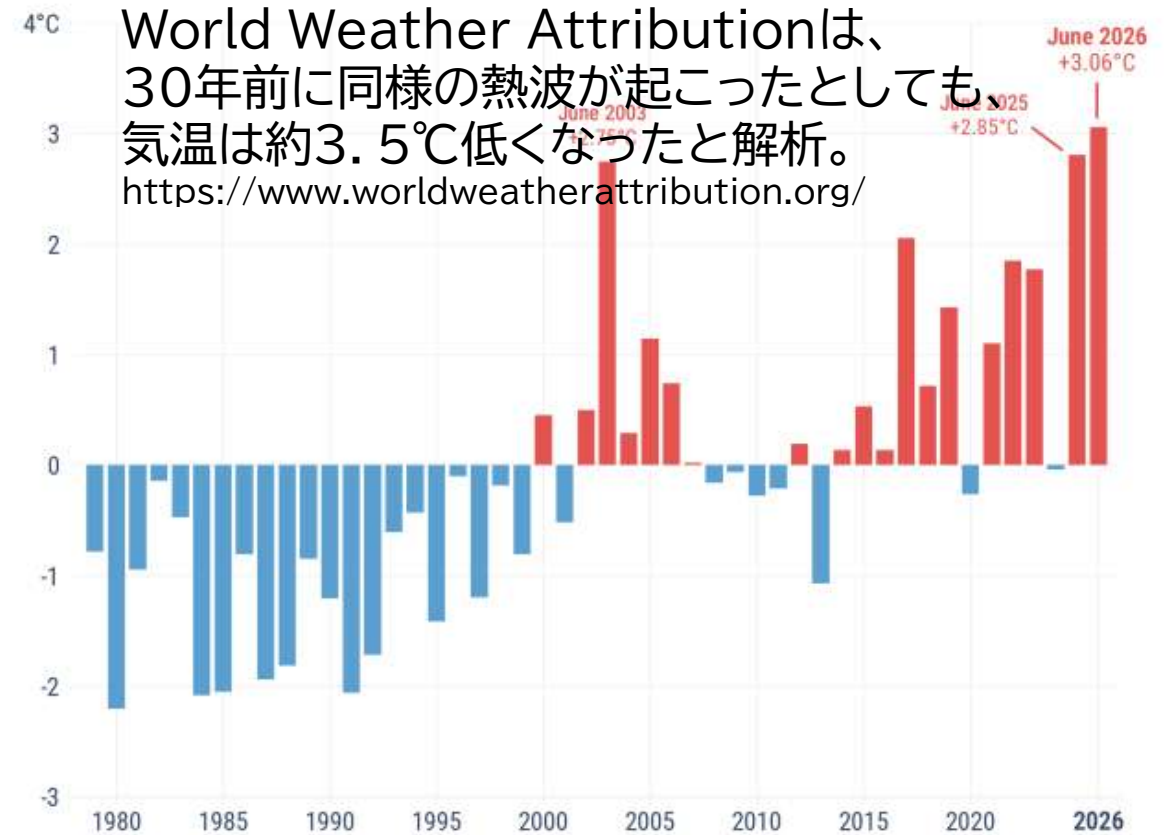
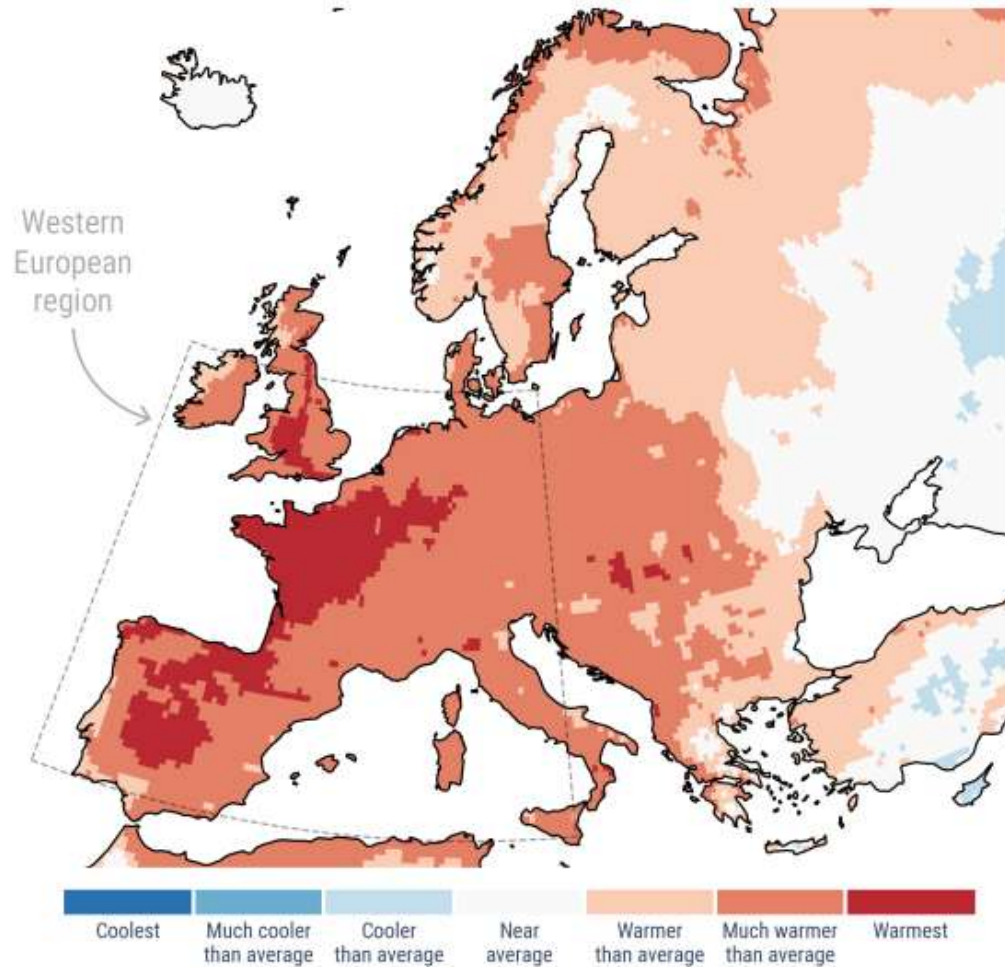
C3S global temperature trend monitor

C3S世界気温トレンドモニター

出典:コペルニクス気候変動サービス(C3S)
<https://climate.copernicus.eu/>



2026年6月、ヨーロッパは激しい熱波に。西部地域で月間最高気温を記録。



Colour categories refer to the percentiles of the temperature distributions for the 1991–2020 reference period. The “coolest” and “warmest” categories are based on June rankings for the period 1979–2026. The western European region outlined in the map and used for the time series covers all land area within 11°W–15°E, 37°–55°N.



PROGRAMME OF
THE EUROPEAN UNION

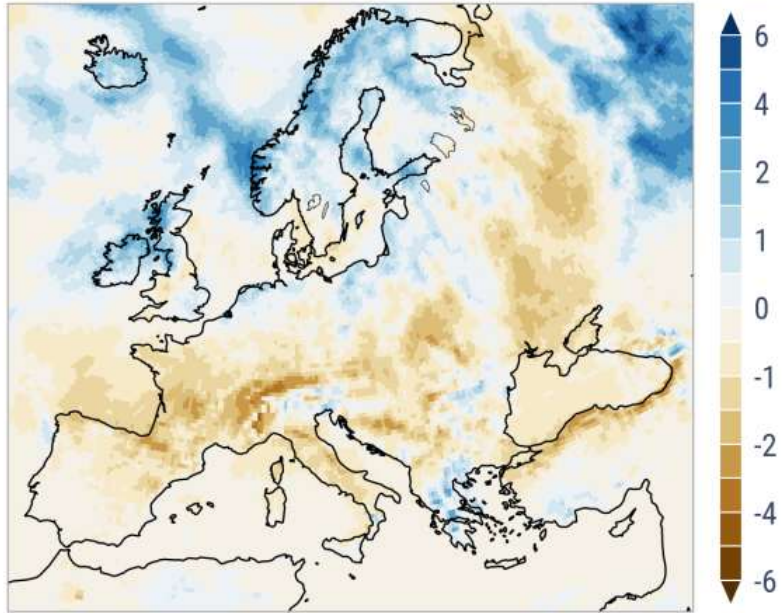


IMPLEMENTED BY

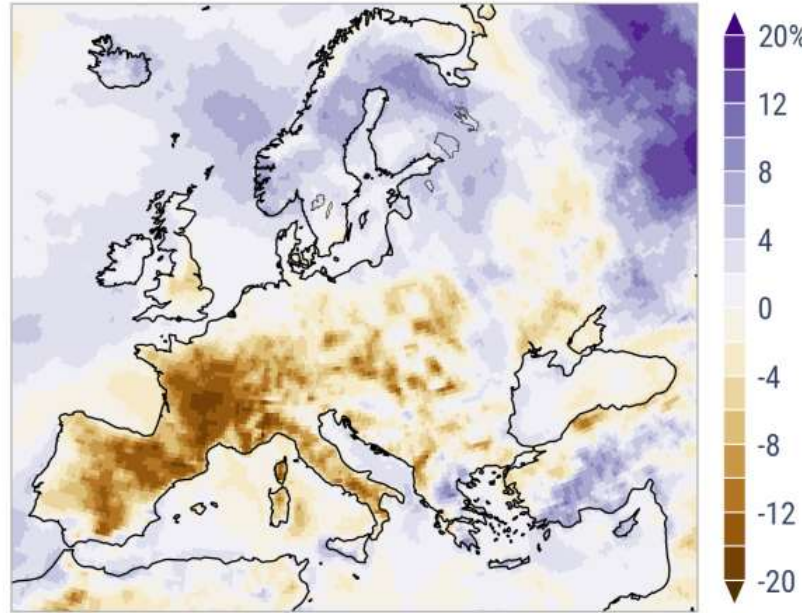


Total precipitation

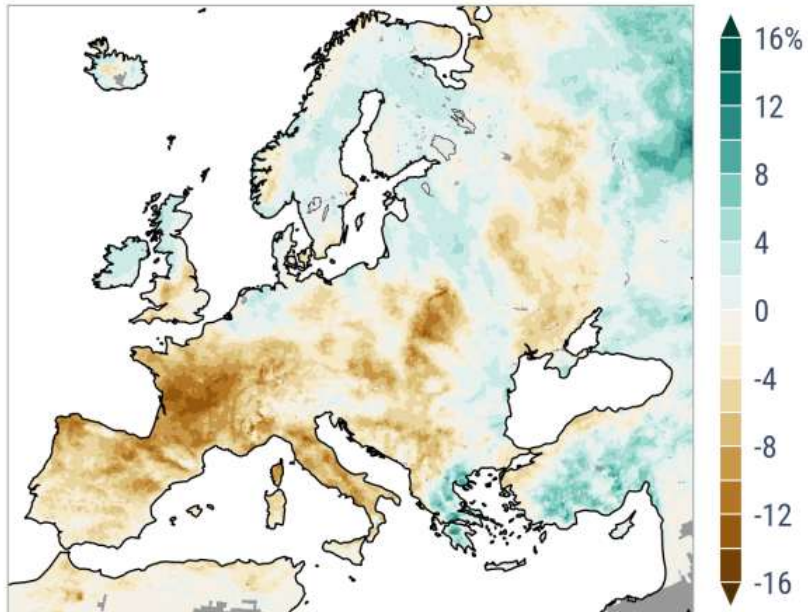
mm/day



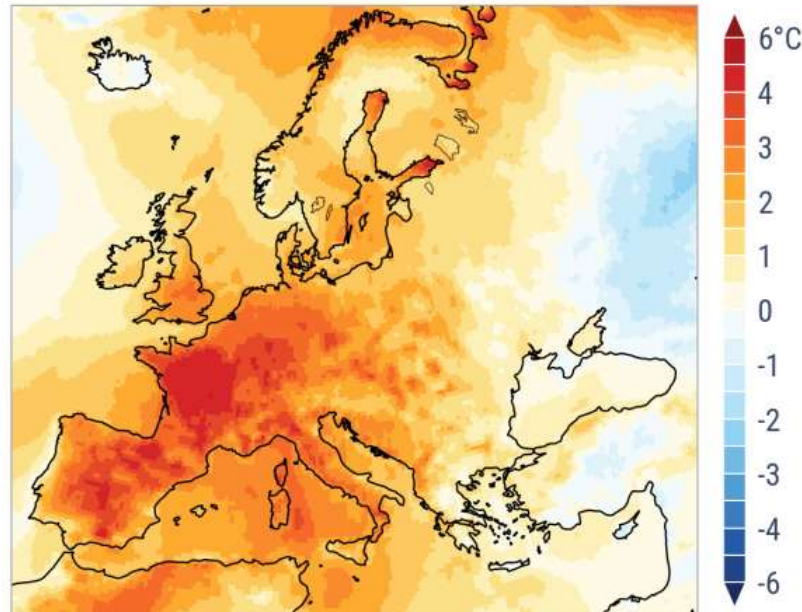
Surface air relative humidity



Surface soil moisture



Surface air temperature



乾燥はヨーロッパ、
北米、ロシアで
山火事の一因に

降水量の異常、表層空気の相対湿度、土壌上部7cmの体積水分量、2026年6月の地表気温と1991年から2020年の6月平均と比較しての異常。濃い灰色の陰影は、氷の覆いや気候学的に降水量が少ない土壌水分が示されていない場所を示す。

データソース:ERA5およびERA5-Land。

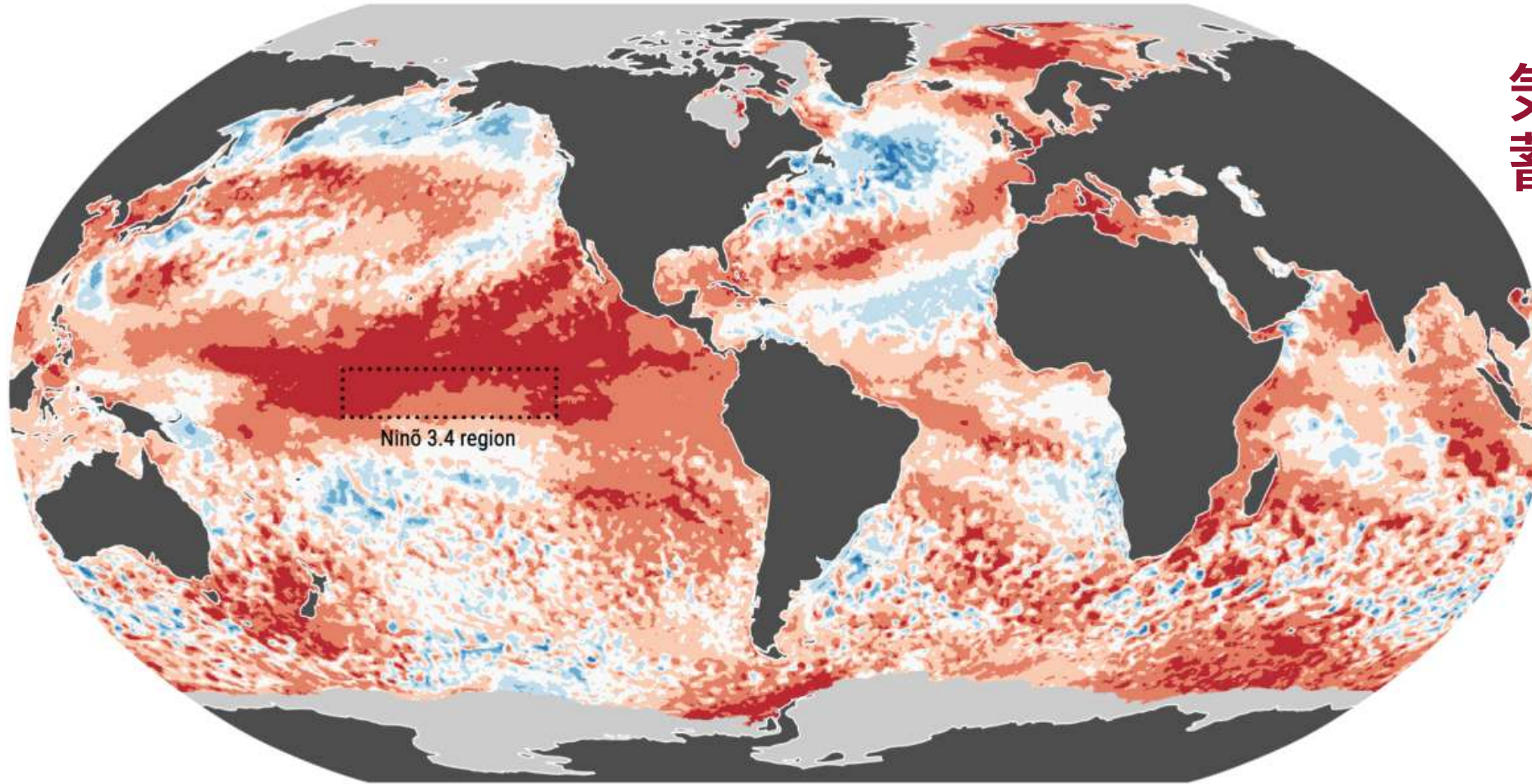
出典:C3S/ECMWF

Anomalies and extremes in sea surface temperature in June 2026

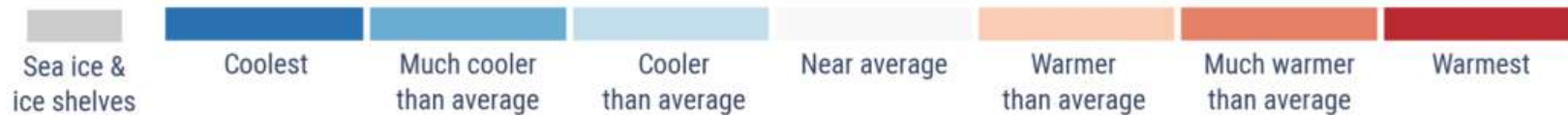
Data: ERA5 1979–2026 • Reference period: 1991–2020 • Credit: C3S/ECMWF

2026年6月における
海面水温の偏差と極端な値

気候システムが熱を
蓄積し続けている



その結果、
ますます激しい熱波、
持続的に温暖化する海、
そして人間、生態系、
インフラに対する
リスクの増大が進む



PROGRAMME OF
THE EUROPEAN UNION



IMPLEMENTED BY



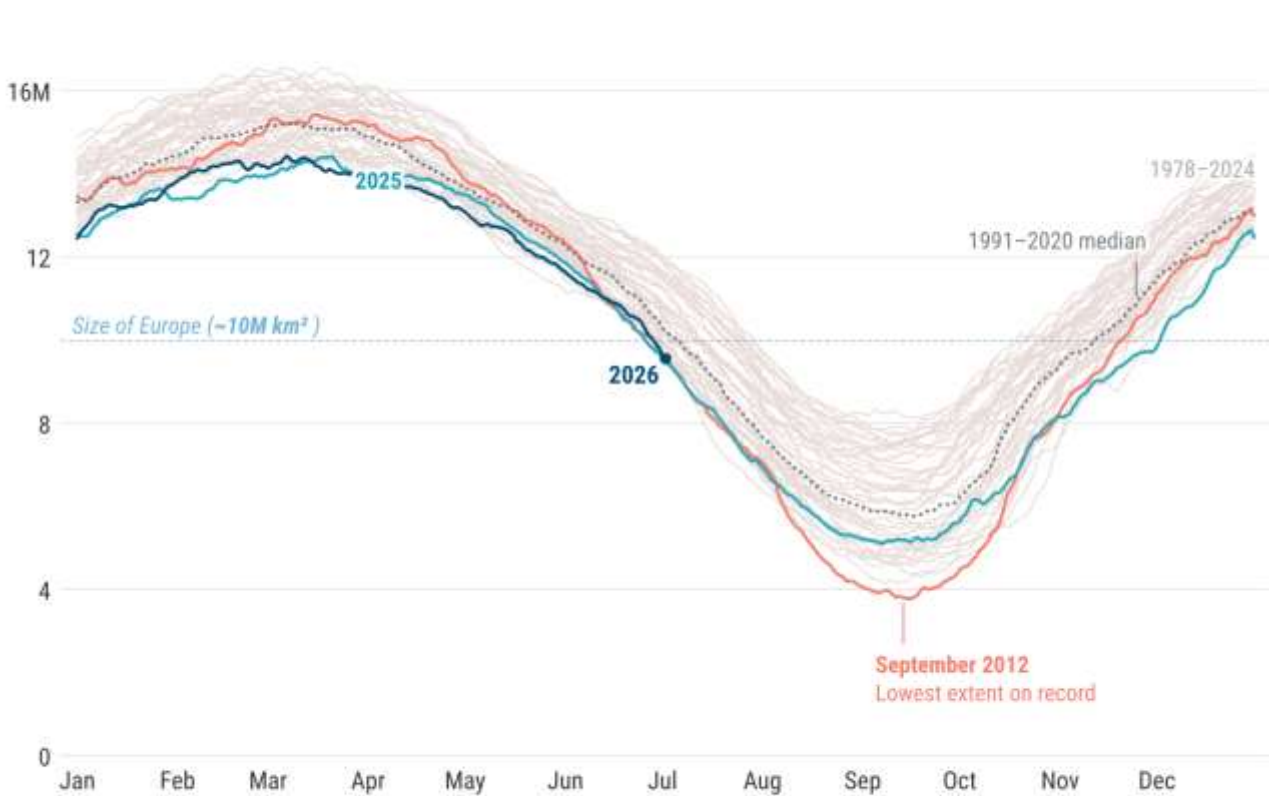
出典: Sea surface temperature
anomalies, June 2026
ECMWF/Copernicus Climate
Change Service

極域の海水面積の変化

北極

Daily Arctic sea ice extent

Data: OSI SAF Sea Ice Index v2.3 • Credit: C3S/ECMWF/EUMETSAT



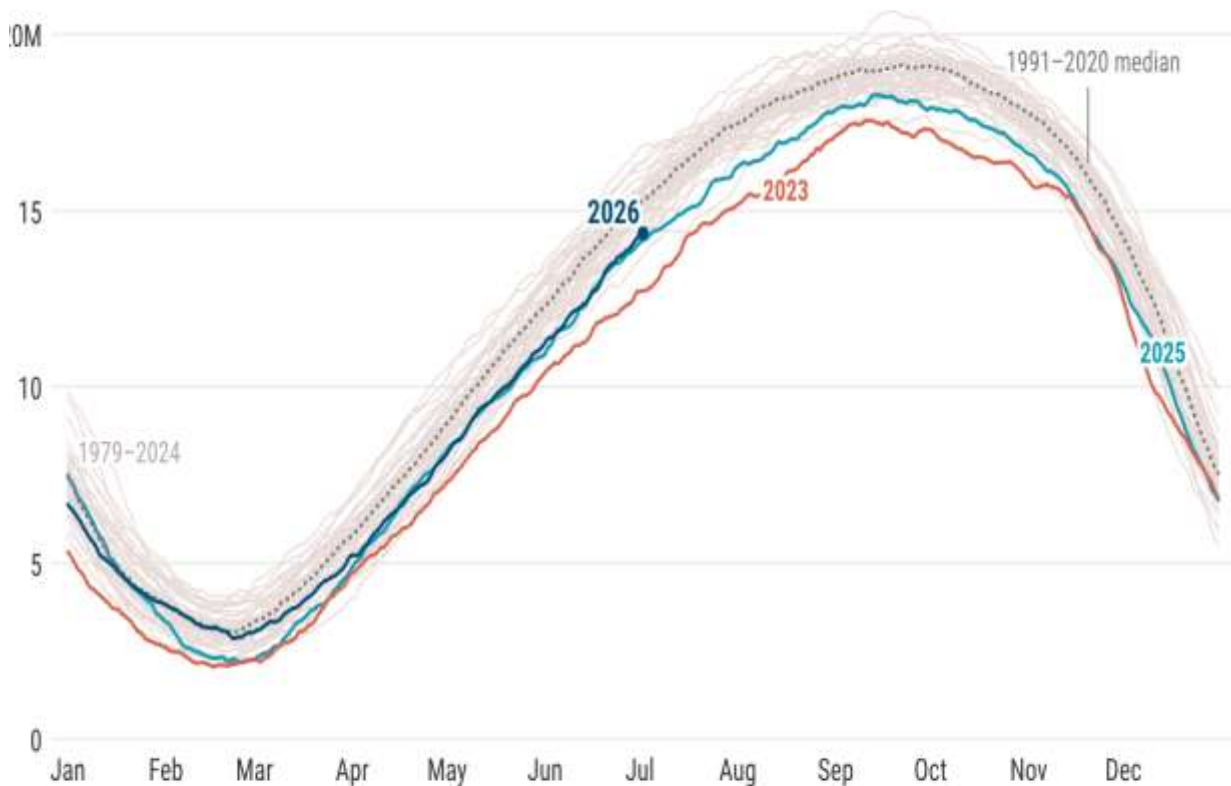
Data in million square kilometres

2026年6月は、北極、南極共に過去6番目に小さくなった

南極

Daily Antarctic sea ice extent

Data: OSI SAF Sea Ice Index v2.3 • Credit: C3S/ECMWF/EUMETSAT



Data in million square kilometres

2025年、海洋の熱量は66年間の観測記録の中で最高レベルに達した

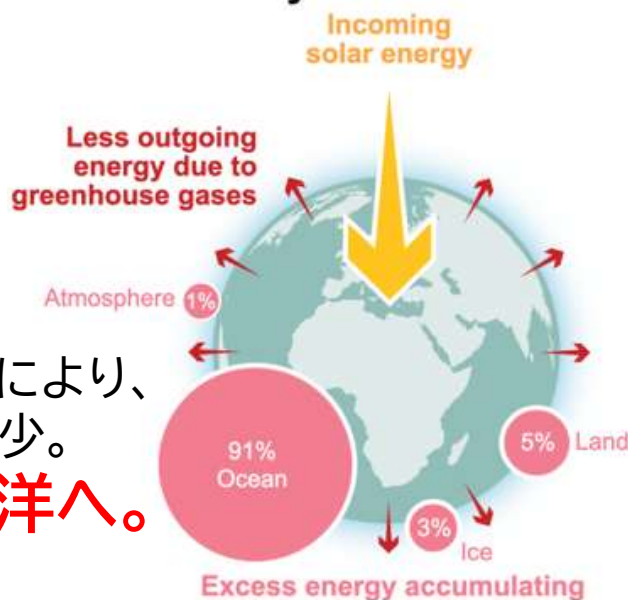
Stable climate: in balance

安定した気候：
太陽放射と地球放射の
エネルギーは均衡が
保たれている



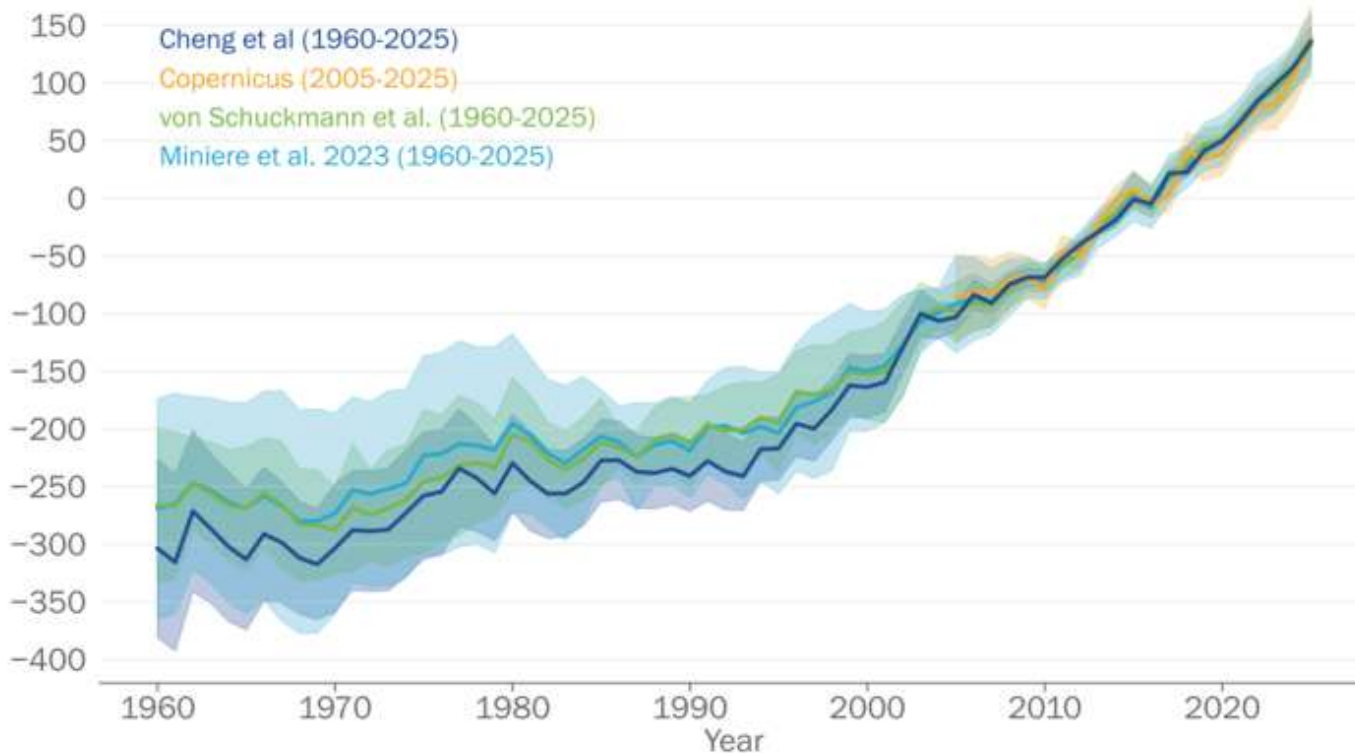
現在：不均衡な状態

Today: imbalanced



温室効果ガスにより、
地球放射は減少。
91%が海洋へ。

Ocean heat content 0-2000m 1960-2025
Difference from 2005-2025 average

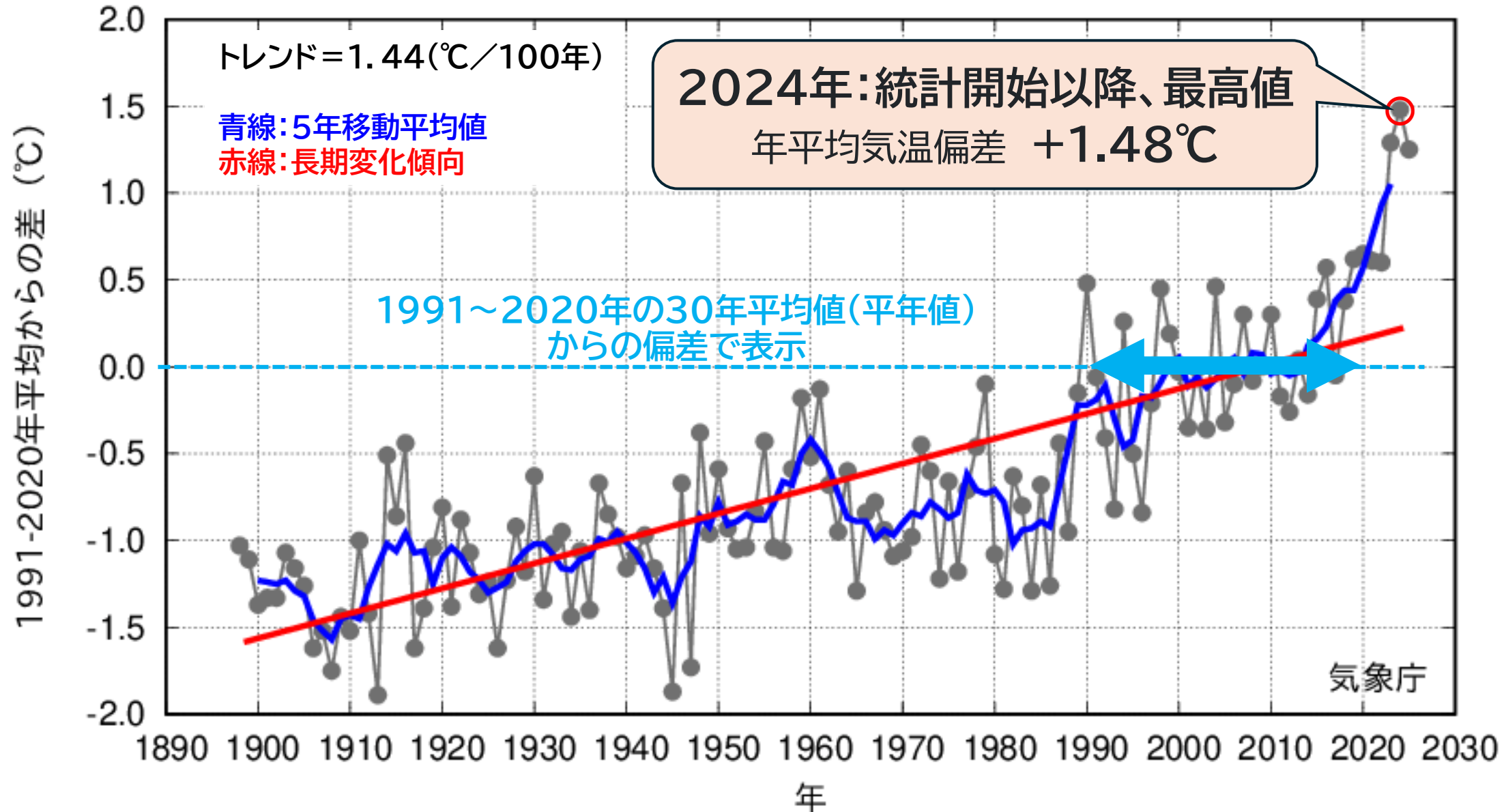


1960年から2025年の年間の2000m深さまでの
年間海洋熱含有量(ゼットジュール(ZJ))

出典；WMO「2025年世界気候現状」報告書

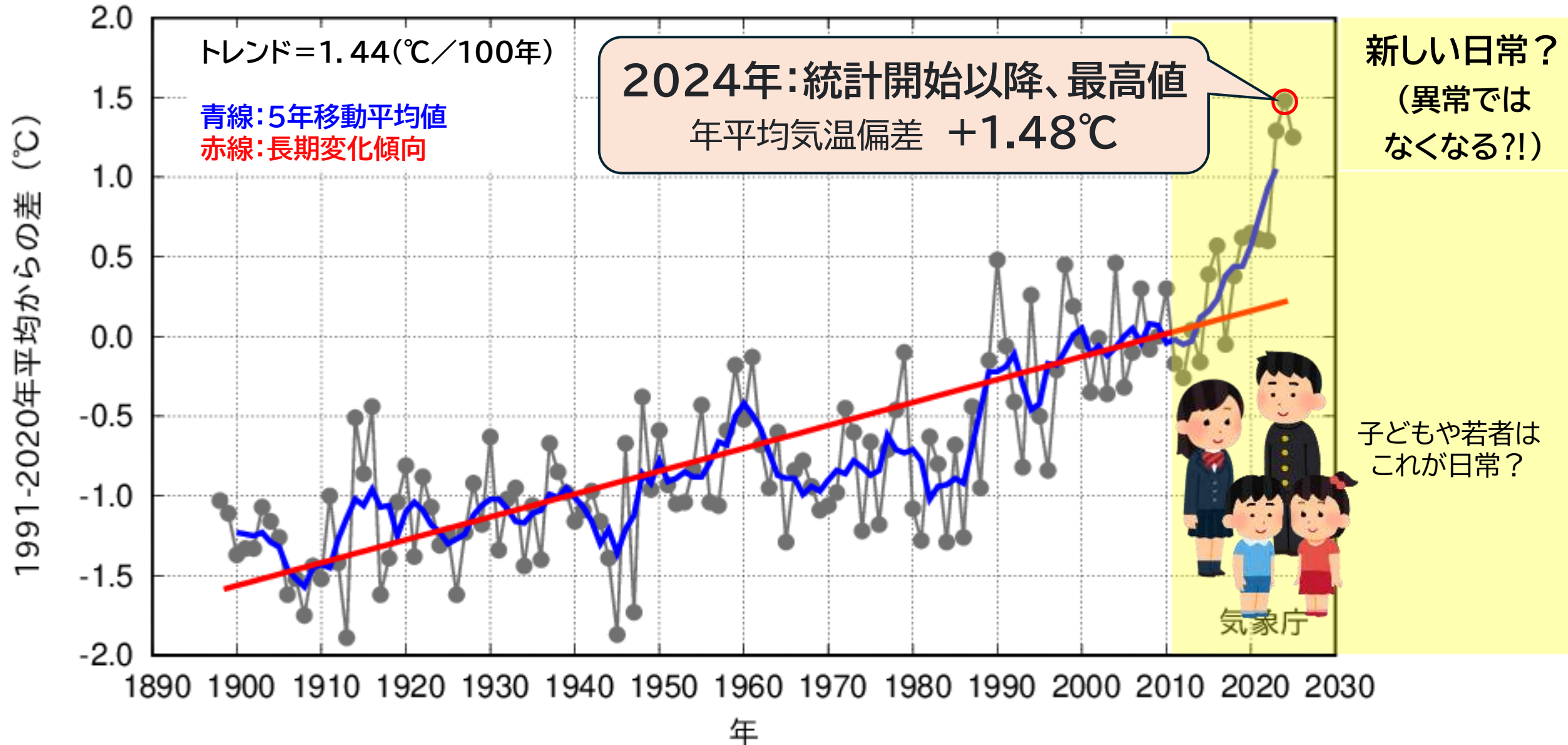
1898～2025年の日本の年平均気温の経年変化

1991～2020年の30年平均値からの偏差で表示



1898～2025年の日本の年平均気温の経年変化

1991～2020年の30年平均値からの偏差で表示



新たな気象情報で危険を呼びかけ

出典:気象庁

最高気温が
30℃以上の日を「真夏日」
35℃以上の日は「猛暑日」
40℃以上の日は「**酷暑日**」

令和8年5月29日より
気象の警報などが大きく変わりました

	河川氾濫	大雨	土砂災害	高潮
警戒レベル 5相当	レベル5 氾濫特別警報	レベル5 大雨特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報
警戒レベル 4相当	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 大雨危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報
警戒レベル 3相当	レベル3 氾濫警報	レベル3 大雨警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報
警戒レベル 2	レベル2 氾濫注意報	レベル2 大雨注意報	レベル2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報
警戒レベル 1	早期注意情報			



報道発表

令和8年4月17日
大気海洋部

いのちとくらしをまもる
防災減災



最高気温が40℃以上の日の名称を「酷暑日」に決定

最高気温40℃以上の日の名称について、気象庁ホームページで実施したアンケート結果や有識者のご意見を踏まえて「酷暑日」と決定しました。

近年、夏に顕著な高温を記録する年が頻発しており、40℃を超える気温が毎年のように観測される状況を受け、最高気温が40℃以上の日について新たに名称を定めるべく、2月27日（金）から3月29日（日）にかけて気象庁ホームページにおいてアンケートを実施しました。非常に多くの方から回答をいただき、感謝申し上げます。

同アンケートの結果（別紙参照）及び有識者からいただいたご意見を踏まえ、



警報・注意報の情報名に「レベル」が付記されます



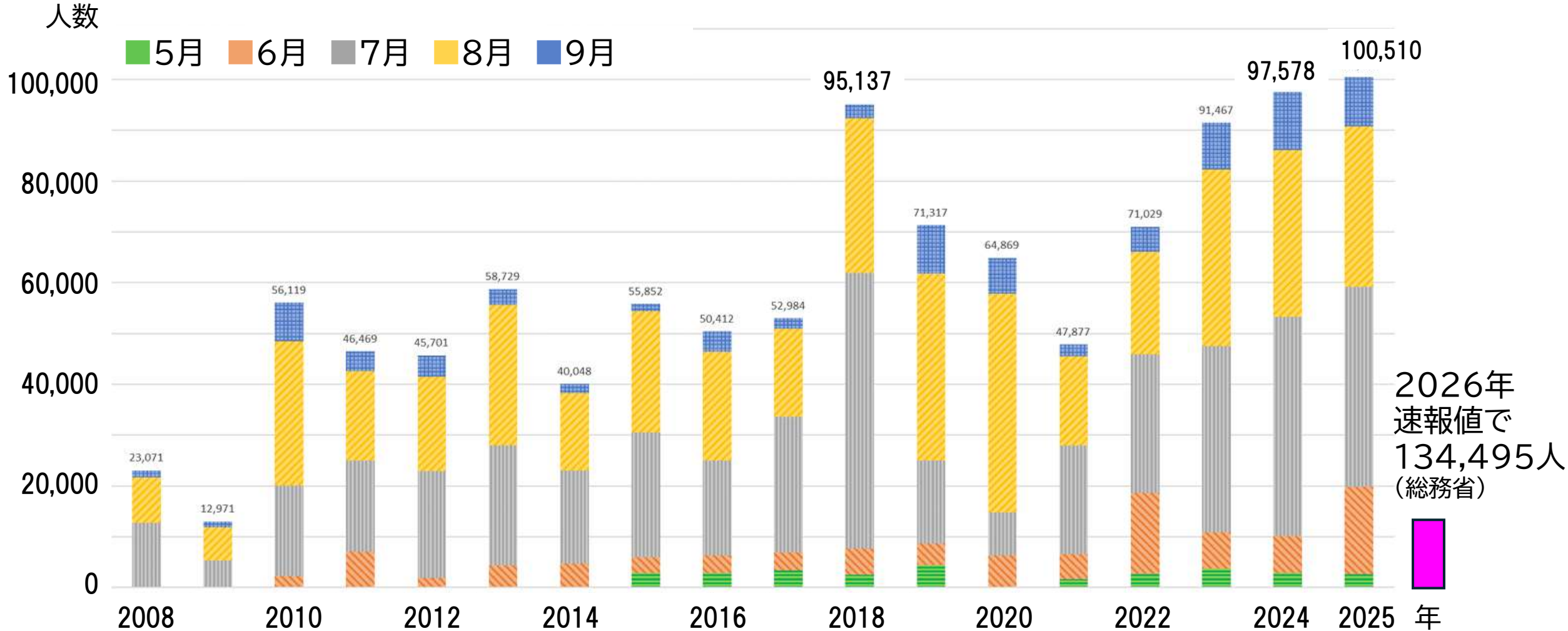
河川の氾濫の危険度の伝え方が変わりました（特別警報の新設など）



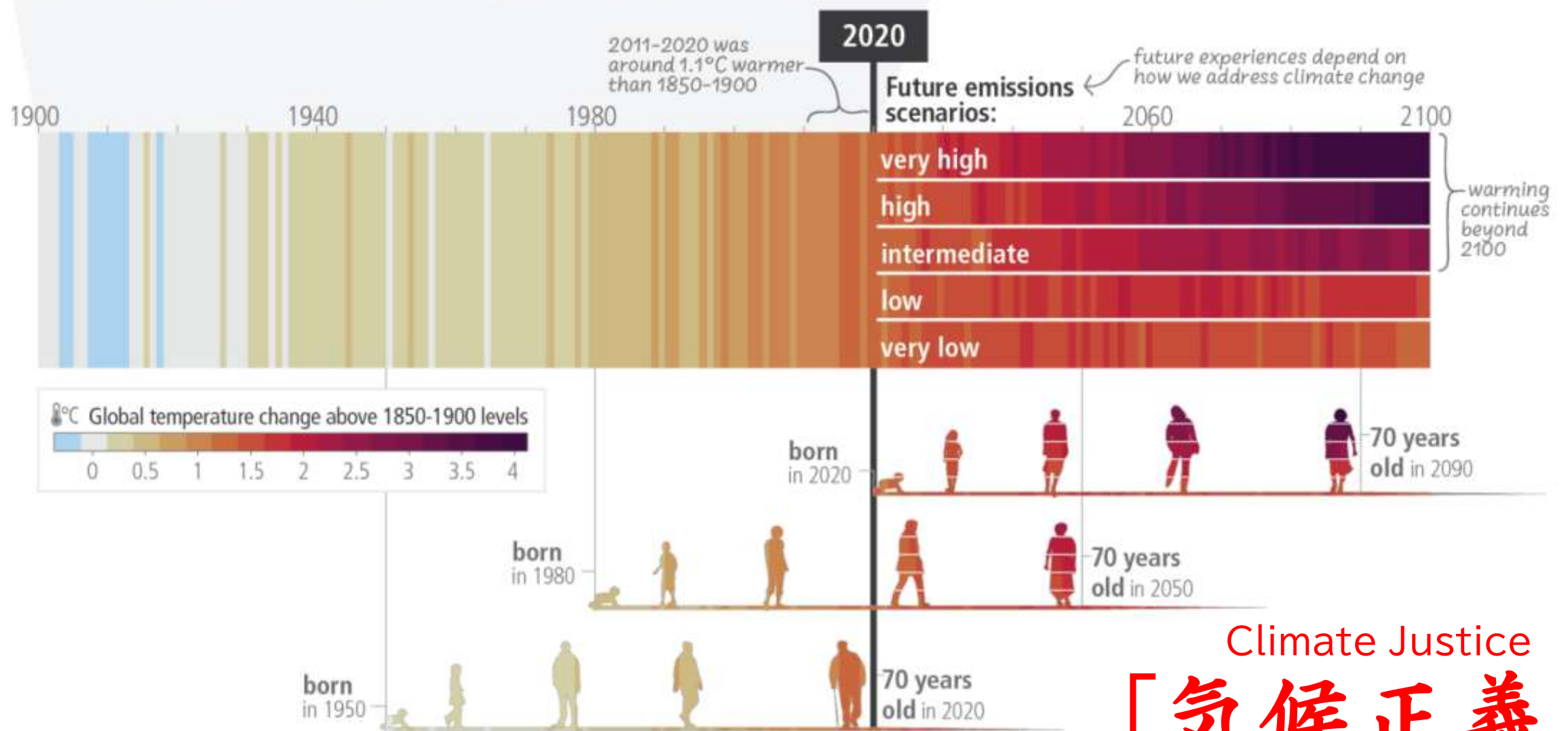
「警戒レベル4相当」の情報は「危険警報」として発表されます

熱中症による救急搬送人数の推移(2008～2025年)

2023年、2024年、2025年の夏は猛烈な暑さが続き、エアコンの適切な利用が呼びかけられた。
2025年の搬送人数は10万人を超え最多となった。



将来世代の経験は、 現代世代の私たちが気候変動にどう対処するかにかかっている



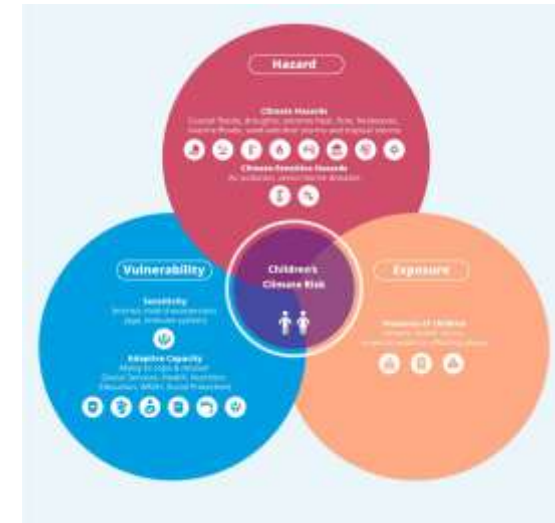
Climate Justice
「気候正義」

世代間の不公平は気候正義に反する

子どもの気候リスク報告書2026



- 世界の子どもの約半数11億人が3つ以上重なる気候ハザードに直面。
- 気候変動による自然災害(洪水、干ばつ、熱波、嵐、火災、砂嵐など)が増加し、世界中のほぼすべての子どもが少なくとも1つの気候関連ハザードにさらされている。
- 例えば、熱波には18億人、河川洪水には12億人、干ばつには6億6,200万人が曝露。



吸収源を増やす！

$$94 + 16 - 34 - 25 = 51$$

(単位: 億トン炭素)

①化石燃料
燃焼

②土地利用
変化

③陸上の
吸収

④海洋の
吸収

⑤大気中への
残留

⑤大気中への残留

ネット・ゼロ、
カーボンニュートラル、
さらには、
カーボンマイナスを
目指す！

人間が排出する
二酸化炭素を
半分以上に減らす！

人為起源
二酸化炭素

③陸上の吸収

④海洋の吸収

②土地利用変化

①化石燃料燃焼

陸上

緩和とは？

原因を少なく

2つの

気候変動対策

適応とは？

影響に備える

緩和策の例



気候変動による人間社会や自然への影響を回避するためには、温室効果ガスの排出を削減し、気候変動を極力抑制すること（緩和）が重要です。

適応策の例



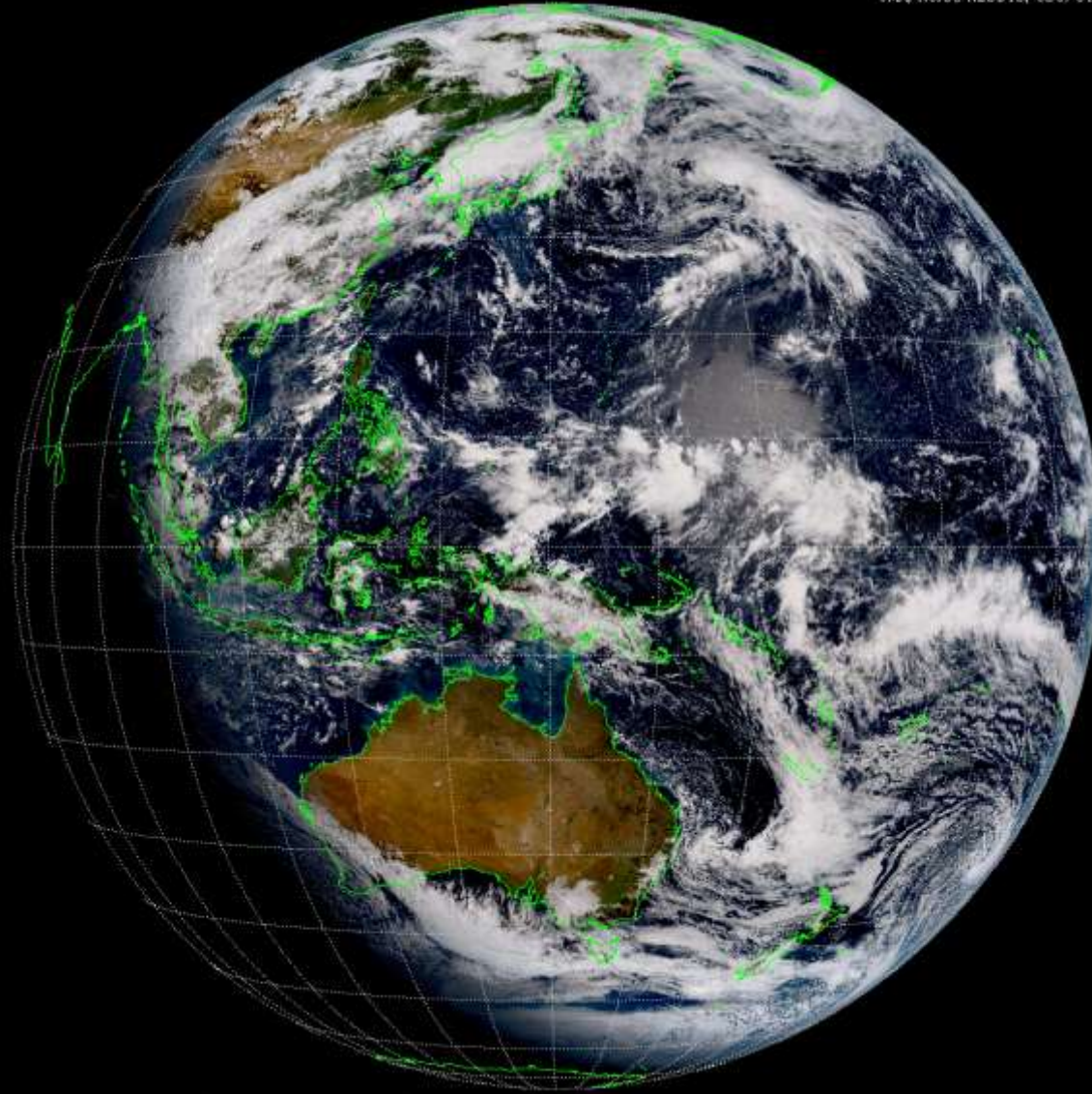
緩和を最大限実施しても避けられない気候変動の影響に対しては、その被害を軽減し、よりよい生活ができるようにしていくこと（適応）が重要です。

化石燃料からの
エネルギー転換が力ギ！

あらかじめ、
地域の弱点を見つける。
ピンチをチャンスに！

2026年7月17日9時00分

JMA, NOAA/NESDIS, CSU/CIRA



2026, 07, 18 09:00 JST (18 JUL 2026 00:00 UTC)

HIMAWARI JMA

出典: 気象庁 (気象衛星ひまわり 全球トゥルーカラー再現画像)

NOAA National Environmental Satellite, Data, and Information Service (NOAA/NESDIS)
Colorado State University-CIRA (CSU/CIRA)

ありがとうございました。